

18-9
江戸4宿
板橋宿芝歩く

1

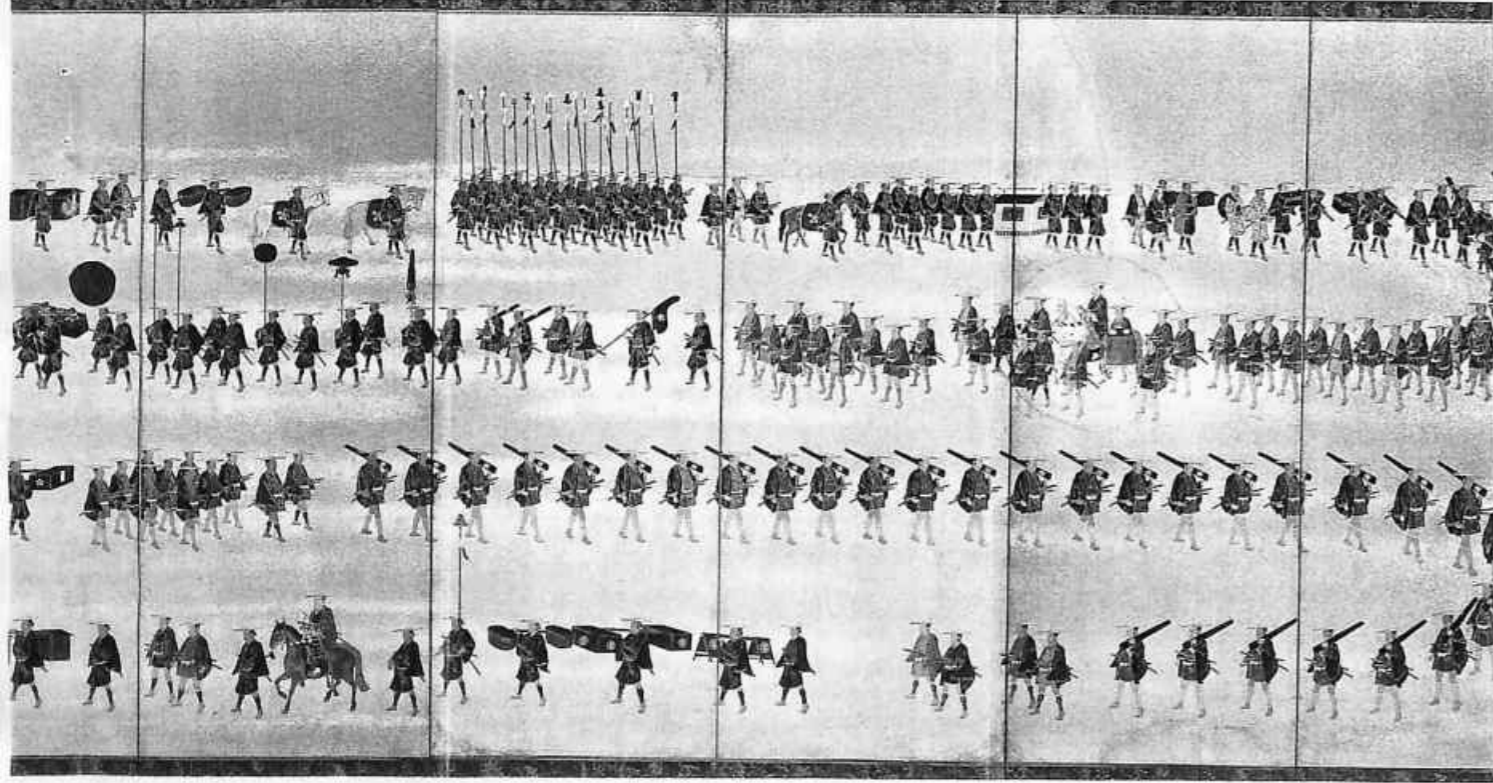


加賀藩
大名行列図
屏風

石川県立歴史博物館蔵

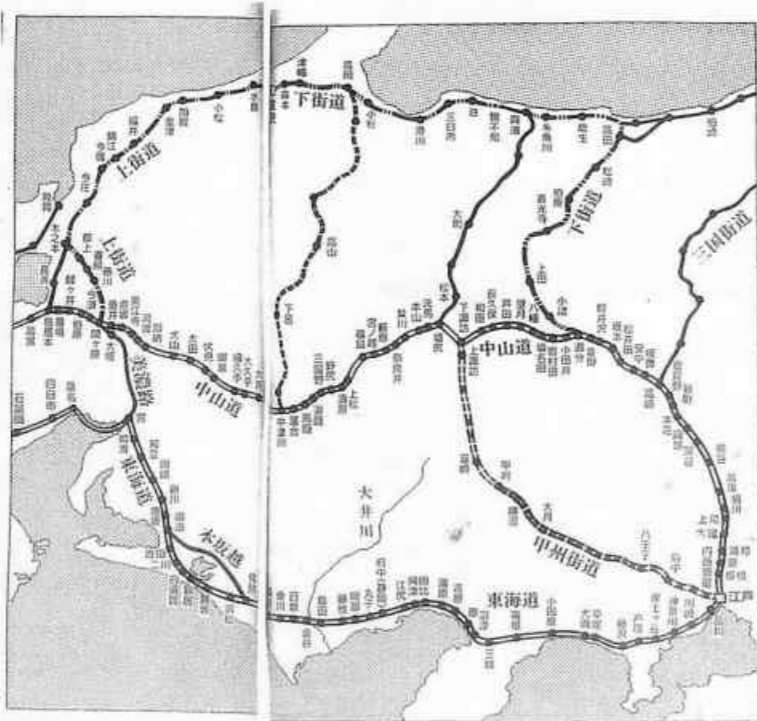
藩主

城史跡のみ



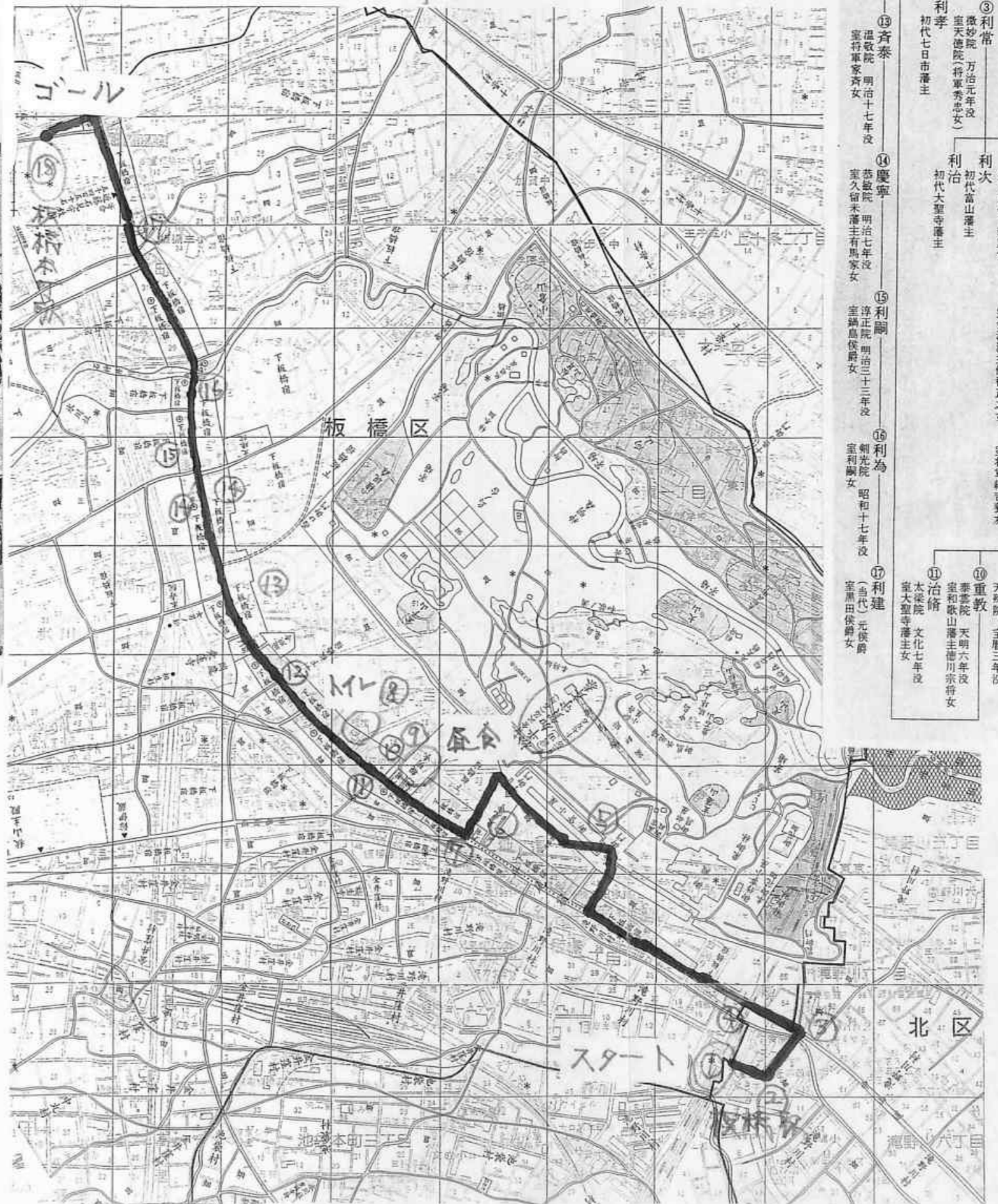
平成18年9月26日

加賀藩の大名行列コース



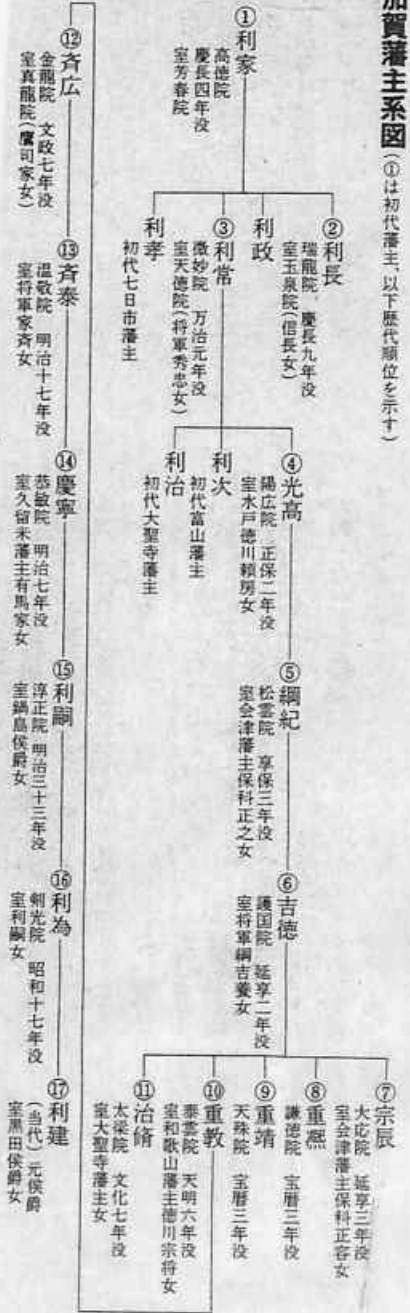
(新分)

2



本日タビ案内コース

加賀藩主系図 (①は初代藩主、以下歴代藩主を示す)



城史跡OB会「江戸4宿、板橋宿を歩く」ご案内資料

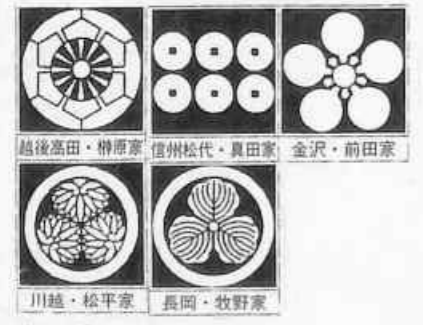
日時＝ 平成18年9月26日(火曜日＝予備日29日)

乗車券＝ 八幡宿→板橋(950円)
 往路＝ (15分前集合)八幡宿8時09分(各駅)蘇我16分着
 蘇我8時29分快速(座れない人は41分快速、前の方乗車)東京9時30分
 ころ着、先頭階段1階だけ上がる。トイレ前いつもの広場集合)開会式
 東京(中央線)新宿(埼京線)板橋10時20分ころ着
 復路＝ 板橋本町(都営三田線210円)水道橋(総武線820円)千葉乗り換え、
 八幡宿18時ころ着
 主要行程＝近藤勇の墓、中山道、加賀屋敷表門跡、東光寺、平尾追分、観光センター、
 観明寺(昼食)、近藤勇尋問の地、板橋本陣跡、皇女和宮降嫁宿泊地、
 板橋、石神井川旧河川敷公園(休憩)、縁切り榎、板橋本町駅
 (時間早まれば有志で後楽園球場周辺散策)

山岸弘明

1) はじめに

- ① 中山(仙)道＝江戸時代の幹線五街道の1つ。江戸日本橋から京都まで。江戸から巢鴨を経由して板橋に出、浦和、熊谷、高崎、坂本を通り、碓井峠、和田峠、木曾路をへて、関が原から東海道の草津宿に合流する。大津を加えた67宿で江戸と京都を結んだ。東海道の次ぐ重要道路で、1宿に50人、50匹の継ぎ立て人馬を用意した。
- ② 中山道を参勤交代で利用した大名は加賀前田100万石以下およそ40家、皇女和宮降嫁、物産の輸送、名所寺社参詣などに機能した。
- ③ 板橋宿＝中山道第1宿。街道に沿っておよそ2km、日本橋側から平尾宿、中宿、上宿の3つに分かれ、もっとも賑やかだったのが中宿、本陣、脇本陣、問屋場を中心に旅籠や茶店などが並んだ。人口およそ2,500人、戸数600を数えたが、街道筋から一歩離れるとたんぼや原っぱが広がった。
- ④ 加賀前田家＝戦国時代後期、織田信長、豊臣秀吉に仕え、徳川家康と並び称された名将前田利家を藩祖とする。金沢城を本拠に加賀、能登、越中3か国、わが国最大家禄120万石を領有、子孫14代がこれを守って明治維新となった。
- ⑤ 前田家の参勤交代＝100万石にふさわしくわが国最大。供揃いの人数は最大が12代斉広の記録した3,500人、通常2,500～2,000人。多量の荷物の輸送に馬1,000匹が動員された記録も。所要日数は12泊13日、1日およそ50km歩いた。歴代藩主の参勤の旅が合計92回、交代が96回。途中何年か免責がある。
- ⑥ 参勤交代で運んだ荷物(武具、献上品を除く)＝替え服、雨具、食料、娯楽用品、鷹、重しを付けた漬物、携帯トイレ、その他日常道具(伝風呂水?)



板橋宿

板橋は北陸・信越・関東西部の諸藩が利用しました。その数も千住よりやや少ないです。和宮の降嫁をはじめとして宮家姫君の降嫁の時は東海道をなく中山道が利用されたようです。宿脇に加賀前田家の下屋敷がありました。前田家を例外として、真田家、牧野家、榊原家などやや小さい大名が多かった様です。



天保14年(1843)の江戸四宿

	本陣	脇本陣	旅籠	家数	人口	日本橋から本陣までの距離
品川宿	1	2	93	1,561	6,890	約 8.8 km
千住宿	1	1	55	2,370	9,956	約 8.7 km
板橋宿	1	3	54	573	2,448	約10.4 km
内藤新宿	1	0	24	698	2,377	約 7.5 km



板橋宿

- 2) 板橋刑場跡寿徳寺墓地、新撰組近藤勇の墓
 - ① 幕末、京都の勤皇志士たちを震撼させた新撰組も鳥羽伏見の戦いに敗れ、近藤勇、土方歳三以下44名が江戸に逃げ帰る。次いで幕府から命じられた甲州鎮撫隊は、急進派新撰組のていのいい江戸追放。甲府は1足早く新政府軍が入城、新撰組は城下を目前に大敗、瓦解した。
 - ② 近藤、土方らは流山で再挙するが、東山道鎮撫隊の前に降伏、近藤は板橋の処刑場で斬首された。享年35才であった。
 - ③ 刑場跡と寿徳寺境外墓地＝かつて一帯は遊女や無縁者の投げ込み墓地、刑場、馬捨て場など荒廃した湿地だったという。
 - ④ 近藤の墓＝勇生院 光放運居士、近藤勇宣昌、慶応四戊辰年四月二十五日
 - ⑤ 近藤、土方の墓＝高さ4mの碑は、近藤勇宣昌、土方歳三義豊之墓、側面に井上順三郎、原田左之助、山南敬助ら隊士名を刻む。
 - ⑥ 建立に奔走した新撰組永倉新八の墓、近藤勇像、肖像絵など。命日の4月25日は老若男女近藤勇ファンが集まる。
- 3) 日本橋から2つめ平尾一里塚
 - ① 中山道、森川に次ぐ2つ目の一里塚。次は志村。道路の両側に塚を作り目印の木が植えられた。一里塚から先が下板橋宿でこのあたりを平尾宿といった。
 - ② 一里塚あたりを描いた英泉の「木曾街道板橋駅」(参照)が有名。茶店や平尾宿の宿場通りが描かれている。一里塚は明治時代に取り払われ、いまは駅前の商店街になっている。
 - ③ 一里塚、JR線を超えたあたりから板橋宿の平尾宿の宿場町がはじまる。
- 4) 千川(せんかわ)用水跡
 - ① 玉川用水を分水し、巢鴨庚申塚まで30kmの人工水路。小石川白山御殿、湯島聖堂、寛永寺、浅草寺などへの給水を目的に河村瑞軒が設計した。
 - ② 工事は仙川の徳兵衛、太兵衛が請け負い元禄9年完成、用水名となった。
 - ③ その後、流域農民の願いで灌漑用水利用が許されたが、昭和15年周辺都市化のため暗渠に。
 - ④ 板橋駅周辺に上水跡。盛り上がりは低地で揚げ土したため、下に暗渠が通る。



近藤勇の墓 ↑

近藤勇と新撰組隊士供養塔

東京都北区板橋区板橋1-1-1 近藤勇と新撰組隊士供養塔

近藤勇(1834-1868)は、京都府宇治市出身の幕末の志士。新撰組のリーダーとして、鳥羽・伏見の戦いで敗れ、江戸に逃げ帰る。板橋の刑場で斬首された。享年35歳。近藤勇の墓は、板橋区板橋1-1-1の近藤勇と新撰組隊士供養塔に祀られている。



近藤勇 土方歳三



一里塚と現在地 ↑



5) 大御門通りと加賀藩下屋敷跡

- ① 街道から大御門通りを50mほど進むといまの中山道で出る。合流点が表門跡、地形の変化と宅地化で当時を偲ぶこともできない。
- ② 加賀藩前田家の上屋敷は本郷の東京大学、有名な赤門は13代藩主斉泰の継室に將軍家斉の娘借を迎えたときの御守殿門。
- ③ 加賀藩下屋敷跡=壮大な国持ち大名門を想定するが、屋敷絵図をみると簡単な冠木門のようだ。次いで薬医門か棟門らしい中御門をへて下屋敷御殿の玄関式台へ。屋敷図はいまいち不鮮明だが100万石下屋敷としてはやや質素?、敷地面積21万坪のほぼ90%が庭園。江戸を代表する池泉回遊式庭園であったが遺構はほぼ壊滅、池泉の源泉でもある石神井川と大山(築山)などが現存している。今回はコースの関係で庭園部分は立ち入らない。
- ④ 加賀藩の参勤交代は江戸への往路は最終夜を加賀藩邸で過ごして翌早朝江戸日本橋をめざす。日本橋で江戸入りのセレモニーをへて本郷の上屋敷へ。復路はいったん日本橋に出てセレモニー、下屋敷で休むか泊まるかして中山道を金沢へと旅立った。
- ⑤ 表門跡から金子口御門へ敷地外周を回る。現在は板橋第4小学校、北園高校など。屋敷絵図によると塀壁がめぐり、かや葺きらしい長屋に御貸し小屋とある。参勤交代で江戸に出張した下級武士たちの社宅アパートであろうか。

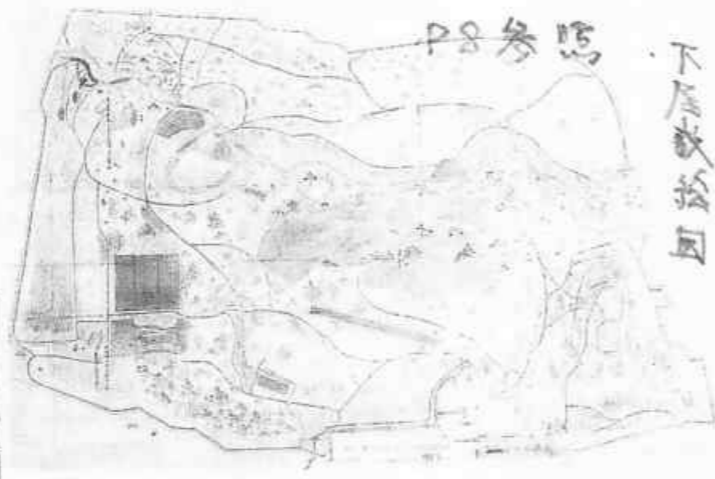
6) 東光寺と宇喜多秀家の墓

- ① 浄土宗。本尊阿弥陀如来。創建不詳だが少なくとも室町後期からの古刹。江戸中期、旧地が加賀藩邸に繰り込まれ街道沿いの現在地に。かつて広大な寺域も道路などで削減している。
- ② 宇喜多秀家の墓=豊臣秀吉5大老の1人で、備前、美作2か国と備中の東半分、あわせて岡山50万石を領有した。慶長5年の関が原の合戦では西軍の総帥に推され、敗れて島津義弘を頼った。島津、前田氏の助命嘆願で死罪を免れいったん久能山に幽閉されたが、慶長11年八丈島に配流となり、明暦元年(一説に寛永2年)同地で没した。
- ③ 八丈島には一族の同行が許されたが食料もなく悲惨な生活を余儀なくされた。前田家では流人船のつど衣服や食料を送った。
- ④ 子孫は現地で連綿と続き、明治維新ようやく許されて前田家を頼る。およそ3mの不思議な球状、正面に「秀家卿」。八丈島の墓と同形、墓地に宇喜多家の墓も。
- ⑤ 完品に近い庚申塔=寛文2年、フルセット、板橋区で最大、損傷もなくすばらしい。青面金剛像、3面6び、邪鬼、2童子、4夜叉、1猿幣帛、にわとり
- ⑥ 大きな追分地蔵=享保4年に村人180名が建立、平尾追分から移築。



表門内跡

↓宿坊跡



← 東光寺 庚申塔 宇喜多秀家墓 →

7) 川越街道と分岐する平尾追分

- ① 変則交差点は追分跡。直進は中山道で左の道は川越街道となる。
- ② 参勤交代は加賀前田家や高田榊原家、松代真田家、長岡牧野家は右道を川越松平家は左道に分かれた。追分の昔(戦前か)の「切り絵」も楽しい。直進して中板橋宿へ。

8) 板橋観光センター(トイレ)と観明寺境内(昼食)

- ① 板橋区の歴史資料を展示しているが火曜日は定休日、地域センターのトイレを借りる。できれば照明なしで展示資料を一巡したいが。
- ② 観明寺に戻り境内で昼食。持参しなかった人は周辺に食堂もあります。

9) 観明(かんみょう)寺の加賀屋敷移築門と伝左甚五郎?の屋敷稲荷

- ① 2つ目の庚申塔=これも完品、東光寺より1年早い寛文元年。領民にとって信仰は唯一の楽しみ。庚申信仰がさかんだっただろう。
- ② 加賀藩邸通用門=加賀屋敷移築という。薬医門形式。通用門にしてはちょっと貧弱?
- ③ 豊川出世稲荷=これも加賀屋敷からの移築。彫刻がすばらしい。

10) 近藤勇が取り調べを受けた平尾豊田脇本陣

- ① 平尾脇本陣跡=平尾宿の名主豊田家がつとめた。明治維新の時の新政府軍屯所で、流山で捕縛した近藤勇を取り調べた。
- ② 近藤は大久保大和を名乗るが旧隊士で官軍に加わっていた加納鷲雄の証言で偽名がバレる。近藤の扱いに意見が分かれる。薩摩藩は一軍の将として処遇すべしとするが、板垣退助を長とする土佐藩はあくまで罪人としての処罰を譲らない。土佐藩は池田屋事件、三条制札事件などで坂本龍馬や中岡慎太郎らの同志が殺害された。うらみ骨髄、土佐藩の強い主張で処刑が決まった。
- ③ 維新後には西郷隆盛も宿泊した。
- ④ 正面の豊田脇本陣前庭は明治から風呂屋、建物跡はマンションに。維新後転職ができず多くの本陣が取り壊された。

11) 板橋遊廓と「新藤楼」跡

- ① 江戸時代、品川、千住、内藤新宿、板橋の江戸4宿には飯盛女と呼ばれた遊女が公認されていた。板橋宿は定員150人だが実数はもっと多かった。板橋はどろ臭いと人気はいまいちだったという。
- ② 板橋3宿では中宿と上宿が盛り場で旅籠や茶屋などが集まり平尾宿はややさびしかった。ところが明治17年の大火で中宿と上宿が焼けたのでこのあたりが「板橋遊廓」の中心地になった。
- ③ 遊廓「新藤楼」の玄関部分が赤塚の郷土資料館に移築されている。文殊院には遊女の墓もある。

12) 王子新道

- ① 明治時代、王子の工場へ働らきに出る人たちの便利を図るために作られた新道。左折すると地下鉄三田線の板橋区役所駅に出る。

13) 街道の雰囲気味わいながら前進

- ① 板橋は昭和20年の東京大空襲で被災、旧家や老舗はあまり残っていない。
- ② 古いお米屋さん=江戸時代からの老舗。れんが造りの店と奥の蔵は明治建造か。
- ③ 遍照寺跡=馬つなぎ場跡、馬頭観音
- ④ 板橋の老舗菓子店、名物「板橋最中」



平尾追分↑ 観明寺↓



平尾脇本陣↓



↑新藤楼 ↓新月堂のりめが



王子新道 Ojishindo

いたばし最中

14) 板橋宿本陣と高野長英ゆかりの医院跡

- ① 板橋宿本陣跡=旧飯田本陣跡碑、いまスーパー。本陣は街道を通過する大名行列の休泊施設、半官半民の名誉職で名主が兼帯することが多い。城や藩主御殿に準ずる構造で玄関式台、上段の間、書院、広い庭、正面広場は夜間もかがり火が焚かれ、ここで出立時の供揃いが整えられた。
- ② 大村玄洞家跡=幕末の蘭学者で医者の高野長英は、幕政批判のかどで捕らえられたが、弘化元年牢火災で脱走、逃亡生活で弟子でもあった水村長民、玄洞宅に匿われる。逃亡生活 年、嘉永3年江戸青山のかくれ家で踏み込まれ、火を放って壮烈な最後を遂げることになる。

15) 皇女和宮の泊まった中宿飯田脇本陣

- ① いまマンションの地が飯田脇本陣跡。脇は副の意だが幕末のころ実質本陣に。幕末文久元年(1861)佐幕、尊攘抗争の犠牲となったヒロイン和宮が宿泊する。
- ② 住みなれし都路出でて 今日いく日 いそぐもつらき東路の旅
政策結婚反対派の襲撃を避けるため輿の警護に12藩、沿道警護に29藩が動員、行列の長さは延々50kmにおよんで1つの宿を通過するのに4日もかかった。一行は11月江戸に到着、翌2年2月に家茂との結婚式が行われた。同い年の17才であった。

16) 石神川の小さな「板橋」

- ② 板橋=地名のおこりとなった石神川の「小さな板の橋」だが、「義経記」「平家物語」にも登場する歴史的な古橋だという。板橋風橋上から石神川を展望。兩岸の遊歩道、春は「桜名所」で賑わい、いま緑が鮮やか。旧川跡の遊歩公園で少憩。
- ③ 橋周辺は板橋宿の中心地。橋際に高札場もあった。

17) 皇女和宮も廻り道した「縁切り榎」

- ① 古くからの縁切り名所。この木の下を通ったり願をかけると男女の縁が切れるとされる。14代将軍家茂降嫁のため京都から江戸に向かう皇女・和宮が通った時、榎に布を巻いて目隠し、さらに輿は迂回したという。
- ② 鳥居の前にあまり太くない榎と榎が1本ずつ。いまの榎は3代目。

18) 板橋本町駅で解散、帰路に

- ① 板橋本町駅(三田線 駅210円)水道橋
水道橋でJR中央線に乗り換え(850円)千葉経由八幡宿へ18時ころ到着。
 - ② 進行と天候具合により水道橋駅下車の後、有志で後楽園ドーム周辺を散策、ティタイムに。
- 以上

全休日に「日帰りバスで松代城と龍岡城を歩く」申込み受付中
11-11(土)

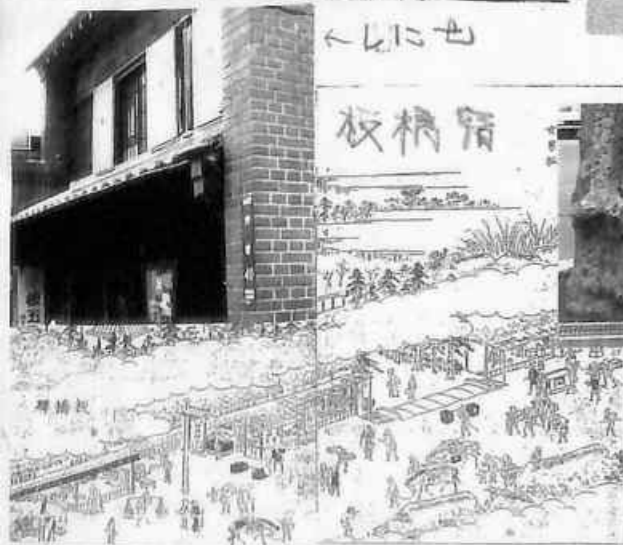
→本陣跡



←にせ

板橋

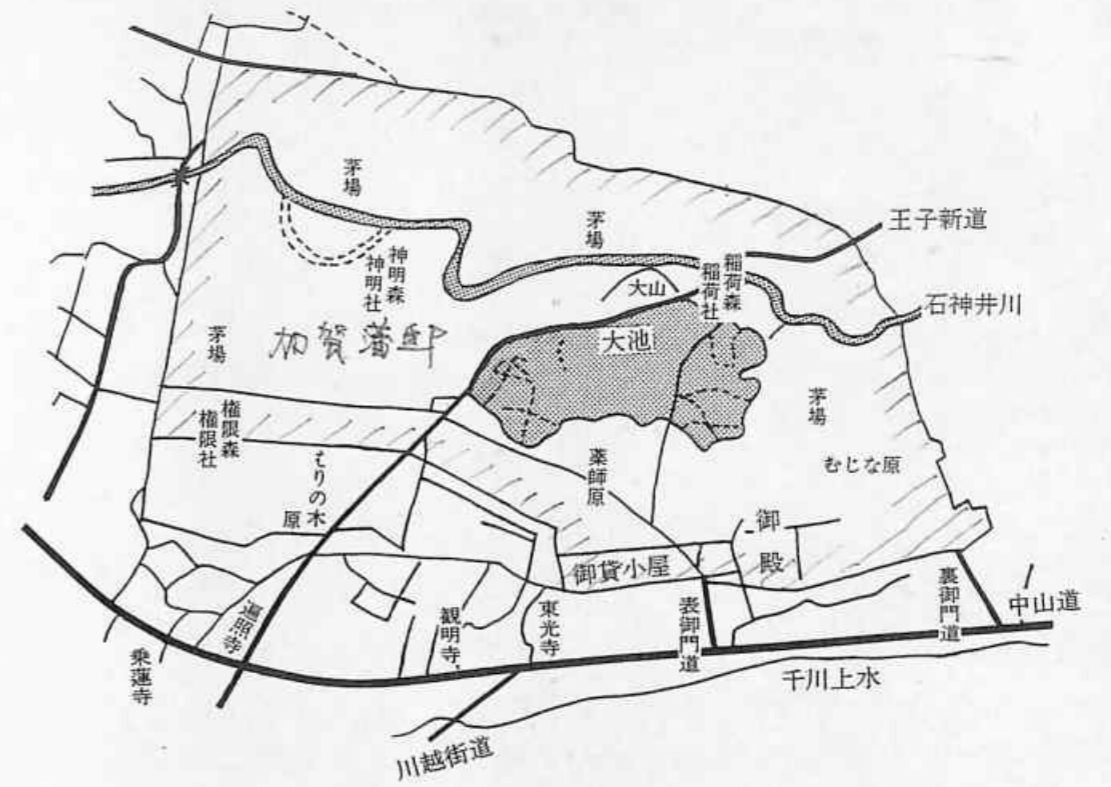
縁切り榎



↑中宿飯田脇本陣



石神井川



「加賀藩江戸下屋敷」(真山正)
がさし用いまいわ

